

モデル事業名	「小諸～杉並」ミート・アンド・マッチングプロジェクト
活動団体名	特定非営利活動法人グリーンネックレス、大里アグリデザイン研究会、 特定非営利活動法人すぎなみ学びの楽園
ホームページ	http://www.komonami.com/
所属/ 担当者名	特定非営利活動法人グリーンネックレス／山田清
連絡先	03-5377-7166 080-5022-0981 email:marukomex.jp@nifty.com
活動地域	長野県小諸市大里地区

● 活動地域の概要

人口：大里 3,073 人（市総数 44,326 人） 世帯数：大里 1,163 世帯（市総数 17,460 世帯）

世帯あたりの人口：大里 2.64 人（市全体 2.54 人） （平成 19 年 4 月 1 日現在）

65 歳以上高齢者：大里 994 人/大里地区総人口の 29.75%（市総数 10,368 人/市総人口の 22.79%）

（平成 17 年 10 月 1 日現在）

農地面積：35.8k m²（総面積の 36.2%） 農業従事者：2,666 人（15 歳以上就業者数の 11.8%）

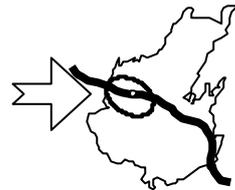
（小諸市全域・平成 17 年 10 月 1 日現在）

平成 11 年以降人口が減少し続けているのに対し、世帯数は増え続けている。これは、単身での居住が増えているためと考えられる。65 歳以上高齢者の人数は、ここ数年で大きく増加している。農業従事者はここ数年増加の傾向がある。

小諸と都市（杉並）は、高速道を使えば 2 時間半で行き来できる距離であり、なかでも今回対象地区となっている大里地区は小諸インターから 5 分以内という好条件となっている。



【広がる耕作放棄地】



【大里地区】



【小諸市の位置】

本事業の交流先である杉並区は、高速道路を利用した交流に非常に適している立地である点、また、既に他地域との農産物販売などでの交流実績があることからモデルとして選定した。

● 活動地域の課題

対象としている大里地区のうち西原一帯は、小諸市内でも耕作放棄地の多いところである。また 08 年のリーマンショックの影響で、大手自動車メーカーの子会社に勤めていた派遣社員が職を失い、派遣社員に住居を提供していたアパートのオーナーの収入が激減するという連鎖が生じたところでもある。

こうした問題は、地域だけの努力では解消が困難で、基本的な社会システムとも関連すると考えられる。そこで「都市部で欠けているもの」と「農村部で不足しているもの」の質の違いに着目し、互いに補い合う関係（新たなコミュニティ）を作り、それに呼応する都市部と農村部のコミュニティを醸成させ、それぞれが対等な関係で連携していく仕組みをつくるのが急務と考えた。

● 活動の内容

・平成 21 年度

今年度の活動の主な柱は①小諸市の状況に関する実態調査、②二地域での行事を繋ぐマッチング事業に関する調査、および③二地域を繋ぐ定期便の運航である。

①に関しては対象地域を 09 年 8 月、9 月、12 月、10 年 1 月に実施した。実踏により、耕作放棄地が行政把握のものよりも多く存在し、さらに現地農家へのヒアリングを通して耕作はしているものの生産をしていない事実上の放棄地が多く存在するとともに、所有者の高齢化及び後継者不在のために今後耕作放棄地となる可能性が高い農地が多数存在することが分かった。またアパートの空き室状況に関しては、地元不動産業者からの聞き取りを基に実踏をした結果、元派遣社員退去による空き室が集中して発生していることが分かった。

②に関しては、月に一回程度の耕作放棄地再生作業を通して野菜と蕎麦の収穫ができた。また一連の作業や今後の構想などについて、地元の農家や様々な活動家との意見交換や交流ができる人間関係などを構築することができた。

③に関しては、杉並区内の商店街との連携による直売を開催してきた。その体験を通して、小諸では杉並向けの農産物を生産する計画のほか、常設の飲食店経営も視野に入れた検討がなされている。一方、受け入れ側の杉並では直売箇所の増設のほかアンテナショップ設置も検討されている。

● 活動の成果

・平成21年度



農地再生作業は将来の社会システム構築の前提的なものであるとの考えから、行為の効率性よりも「信用のおける人たちの活動」として地元からの信用・信頼と理解獲得に重きを置いてきた。そのことを通して地元の様々な人たちや団体との交流が生まれ、また地元農家による支援・協力の申し出を得ることができたほか、類似の活動との連携やそれらの人からの情報も提供されるようになった。またこの活動に触発されて自己所有の遊休地で耕作を再開したとの話も聞く。加えて、地元NPO主催事業への委員としての参画や企画立案の協力依頼もあった。

小諸にも多くの個人・グループが多様な活動をしているが、必ずしもすべてが連携し合っているわけではない。そうしたときにこの活動支援が、それらの人たちの出会いのきっかけになったことを考えると、前述の直接的な影響に加え、地域活性化に必要と近年一般的にも言われるようになった、いわゆる「若者・馬鹿者・よそ者」の「よそ者」的效果があったと言える。

一方、「小諸で開催される俳句会への杉並からの参加」や「杉並で開催される『まちづくり博覧会』への小諸のNPOの参加・出展」といった文化交流も実施され、「活動の内容③」における定期便の運航に幅をもたらすことができた。

● 今後の課題及び展望

・課題

中長期計画における事業化の柱は再生農地の活用である。それを実現するためには地元農家、とりわけ耕作放棄地所有者との信頼及び協力関係をいかに築いていくかが最重要課題と考える。また、生産量に対応する販路確保がないとシステムとしては不十分であるので、杉並における商店会関係者との連携による直売所の増設や定期化及び常設のアンテナショップ設置も課題の一つである。

一方、これらを叶えていくためには様々な調整、検証、企画立案、実行と一連の事業を統括するトータルコーディネーターに関するマンパワーと、人件費を含めた必要経費をいかに調達・確保していくかも欠かすことのできない大きな課題である。

さらに付け加えれば、こうした一連の行為は営利的な面だけで遂行できるものではなく公共性を内包しているものであることから、「新たな公の担い手」を保障していく制度の整備も社会的課題と考える。

・展望

将来展望として、過度な競争原理に翻弄されないもう一つの社会軸の形成を考えている。

そのために、中長期的には①再生農地活用による事業化を念頭に置いた地元農家との協力関係構築と必要な取り決め事項の締結、②それを推進していく事業主体の設立、③象徴としての「コレクティブファーム」概念の設計を視野に置いている。

こうした考えを念頭に置いた短期的展望として、①再生農地での生産性向上と耕作放棄地提供者の確保に向けた活動の継続と、会員制などを導入した新たな展開、②杉並における直売の機会と場所の充実を考えている。